

New Wave

住まいのカタチ

話題の住宅を紹介します！



増えてます 福祉型シェアハウス

セーフティネット制度踏まえ 広がるアイデア

一つの住宅に他人同士が一緒に暮らすシェアハウス（共同居住型住宅）。若者向けの賃貸居住のスタイルととらえる人もいますが、一般の賃貸住宅より安く借りられることに加え、共同生活を通して仲間

意識や協力関係が醸成され互いに支え合うコミュニティになり得ることから、近年は福祉的なコンセプトでつくられる住居が話題となっています。2017年10月から始まった住宅確保要配慮者の入居を拒まないセーフティネット住宅の登録において、シェアハウスも対象に加えられたこともあり、居住支援のための新しいアイデアがいろいろと生まれています。そのように選択肢が広がる賃貸居住の最新事情を探るため、県内の共同居住型セーフティネット住宅に目を向けてみました。

母子世帯、障害者の自立へ情熱注ぐ

2019年11月に登録された「ワンダフルライフ鶴巻」は、知的・精神障害者の自立や社会復帰をサポートするグループホームです。一般社団法人が運営し、セーフティネット住宅として登録されているのは1棟だけですが、これ以外に同様のホームが秦野・伊勢原市内に7棟あり、さらに1棟が開設準備中。男女別に3～9人が暮らし、生活リズムを整えたり就労訓練等に取り組んでいます。

(2面に続く)

福祉的シェアハウスから得られるのは、安心、元気、そして笑顔。
写真右上から、障害者グループホーム「ワンダフルライフ鶴巻」でこの夏の一番の思い出となったハイベキユーの風景（画像提供…一般社団法人ワンダフルライフ）。横浜市瀬谷区の「FORALL愛成」で管理責任者の平本春樹さん（左）と談笑する居住者さん。「下宿やWith」の2期生として、昨年3月、たくさんの祝福を背に巣立っていった女子学生（画像提供…NPO法人さくらんぼ共生事業部）



インデックス

1-4面：特集 増えてます 福祉型シェアハウス

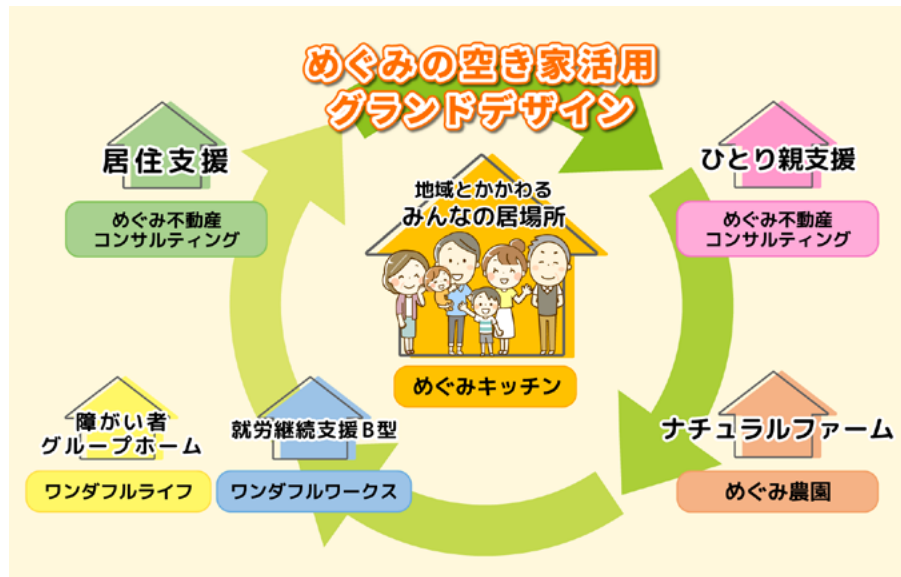
セーフティネット制度踏まえ 広がるアイデア

5面：掲示板／神奈川県居住支援協議会からのお知らせ

6-7面：TOPICS／事務局だより

8面：憩いの水辺探訪

⑩多摩川河川敷せせらぎと親子広場



左上合い、めぐみグループが提供する
 支え合ひ、事業のトータルイメージ。
 ワンダフルライフ鶴巻(右土)提供…
 一般社団法人ワンダフルライフ)を
 はじめ、シェアハウスでは、戸建てを
 改修して活用しています。右は、
 ワンダフルライフ鶴巻の看板犬「ニテン
 ちゃん」を抱っこするグループホー
 ム統括責任者の杉山浩さん

(1 面から続く)

運営理念について、「障害があるからといって無理だから、危険だからと決めつけて厳しい制約を設けるようなことはしていません。利用者さん一人ひとりのやりたいという前向きな気持ちに寄り添い、それを実行できるようにするためにどうすればよいか、共に考える姿勢を大切にしています」と話すのは、統括責任者の杉山浩さん。また、現在5棟のワンダフルライフでは保護犬を1匹ずつ引き取り、ペットが同居しているのも特徴です。「アニマルセラピー」による癒しの効果とともに、命を預かる責任や使命を自覚したり、散歩の世話が健康づくりにも役立つことから、こうしたペット共生型のグループホームは増加傾向にあるようです。

ワンダフルライフの事業がスタートしたのは5年ほど前。さらに遡って2016年の秋、伊勢原市内でシングルマザー向けのシェアハウスを立ち上げたのが、めぐみ不動産コンサルティングの竹田恵子代表です。

「子どもが幼い時期に離婚や別居に踏み切ったママさんたちは、住居が定まらなければ職探しや保育園に申し込むこともで

きず、貧困から抜け出せなくなってしまう。経済的自立を果たし、ステップアップへの足がかりとなる居場所が必要で、予め家具や家電が備わって初期費用が安く済み、複数の母子世帯が助け合って生活できるシェアハウスをなんとしても実現させたかったのです」。そんな竹田さんの問題意識と熱意が、次々と連動しながら大きく広がっていきました。

シングルマザーの相談に応じる中、住まいや働き口が見つからずに困っているのは、障害者、高齢者も同じであることに気

【県内でセーフティネット住宅として登録されたシェアハウス】

住宅名 所在地	シェアハウス戸数 (混在型もあり)	入居対象	家賃	問い合わせ先
チェリーハイム 横浜市鶴見区潮田町	15 戸 (2・3 階) 1 階は 1K が 6 戸	シェア部分は外国人のみ。1K は 身体障害者・知的障害者等も入 居可	シェア部分は非公開 1K は 62,300 円	さくらGS ☎045-453-7121
野毛山ハウス 横浜市西区東ヶ丘	4 戸	低額所得者 (生活保護受給者を 除く)・外国人ほか ※女性のみ	非公開	小豆澤 史絵 ☎045-489-7320
オリーブハウス横浜西谷 横浜市保土ヶ谷区西谷1丁目	6 戸	被災者・外国人	非公開	オリーブワークス ☎090-9316-8010
Nagomo 横浜市旭区四季美台19-2	5 戸	低額所得者 (生活保護受給者を 除く)。5号室は、母子世帯も可 ※女性のみ	3・4 号室 (12.16 ㎡) は 42,000 円 5 号室 (17.38 ㎡) は 45,000 円	認定NPO法人 さくらんぼ ☎045-367-7224
シェアハウスyorozuya 横浜市磯子区中原3-9-15	2 戸	低額所得者 (生活保護受給者を 除く)・被災者・高齢者・身体 障害者・知的障害者・精神障害 者・外国人・子育て世帯ほか ※女性のみ	201 (12.3 ㎡) は 60,000 円 202 (19.8 ㎡) は 89,500 円 ※ いずれも居住中	小林 剛 ☎045-513-3894
富岡西 1 号館 横浜市金沢区富岡西3丁目	4 戸	低額所得者 (生活保護受給者を 除く)・被災者・外国人ほか	50,000 ~60,000 円 ※ いずれも居住中	グリニッシュ ☎03-5787-7151
後藤ビル 横浜市港北区日吉	3 戸 (3・4 階) 2 階は 1LDK が 1 戸	低額所得者・被災者・高齢者・ 外国人・子育て世帯ほか	非公開	後藤 二葉 ☎080-5877-3448

増えてます 福祉型シェアハウス

セーフティネット制度踏まえ 広がるアイデア

付いて、居住支援の取り組みと合わせてグループホームが始動。健全な心身を育む「食、の大切さ」にも目が向けられ、無農薬野菜を栽培する「めぐみ農園」ができ、その食材を活用した子ども食堂併設の「めぐみキッチン」が今年 7 月にオープンしました。また、グループホーム住人が農園での作業に関わり、いろいろなメリットがあることが分かれると、「職、の提供も自前で」という発想につながり、就労継続支援 B 型の事業所「ワンダフルワークス」も開設されました。

こうして、社会生活に困難を抱える人たちをグループ企業でトータルに支援できる仕組みが整い、感慨深げに目を細める竹田さん。「人間だれしも完全ではなく、弱さや欠点を持っていることを認めることが大事。お互い様と許し合い、手を差し伸べることでできる地域づくりに寄与したいですね」と、意欲をのぞかせています。

さりげなく女学生らの育ちをサポート

次に紹介するのは、認定 NPO 法人さくらんぼ（本部・横浜市瀬谷区）が運営に当たる 3 つの女性限定のシェアハウス。まず、相鉄線・三ツ境駅近くの本部事務所ビル 3 階部分に設けられた「下宿や With」は、セーフティネット住宅として登録されたのはことし 3 月（登録住宅名：さくらんぼ）ですが、事業開始は 5 年前になります。

入居対象となっているのは、大学など高等教育を受ける上で親や親戚を頼ることができない境遇にある学生たち。坂本左織共生事業部長によれば、「児童養護施設等から巣立って進学したにもかかわらず、経済的困窮からアルバイト漬けに陥ったり、一人で悩んで挫折してしまう子は少なくありません。安く住める部屋の提供とさりげない見守りにより、きちんと卒業できるまでサポートしようと始めた取り組みです」

運営に際して心掛けているのは「適度な距離感」。卒業後の自立につなげられるよう一人暮らしに近い生活を尊重しつつ、困ったときには声をかけてもらえる関係性を重視しているとい

New Wave
住まいのカタチ

女性限定シェアハウスの LDK。上が「下宿や With」、下が今春オープンした「nagomo」
(提供：NPO 法人さくらんぼ)



います。また、生活上の取り決めについても最低限に留め、月 1 回、入居者全員がそろってミーティングを行うことで、互いに快適に暮らせるコミュニティが保たれているそうです。

NPO さくらんぼは 1997 年の保育園の開園に始まり、学童保育や子育て支援へと事業を広げる中、既存の制度・施設では救いきれない子どもや女性の問題に直面し、そうした案件に対応するため共生事業部が 2021 年に立ち上げられました。この年の 6 月には「下宿や」の空き部屋を活用して、何らかの事情で住む場所を失った女性を日割り家賃で短期的に受け入れる「JIKKA」を開設（2023 年 9 月現在、下宿や With は 6 戸、JIKKA は 1 戸で運営）。食料や日用品を提供するフードバンクの支援もスタートしました。

(4 面に続く)

住宅名 所在地	シェアハウス戸数 (混在型もあり)	入居対象	家賃	問い合わせ先
友敬愛ハウス 横浜市戸塚区原宿1丁目	5 戸	低額所得者（生活保護受給者を除く）・被災者・高齢者・身体障害者・知的障害者・精神障害者・外国人・子育て世帯ほか	62,000 円	神奈川ロイヤル ☎045-440-3911
下宿やWith JIKKA ※セーフティネット住宅としての登録名は「さくらんぼ」 横浜市瀬谷区三ツ境17-1	7 戸	低額所得者（生活保護受給者を除く）・児童養護施設等退所者。 ※女性のみ	302-1 (12.44 m ²) が 44,000 円 他は非公開	認定NPO法人 さくらんぼ ☎045-367-7224
FORALL愛成 横浜市瀬谷区瀬谷4-11-6	7 戸	低額所得者・高齢者・身体障害者・外国人	49,000 ~ 51,000 円 ※6 戸は居住中	神奈川ロイヤル そごう横浜店 ☎0800-123-6186
ワンダフルライフ鶴巻 秦野市鶴巻	9 戸	知的障害者・精神障害者	30,000 ~ 41,000 円 ※いずれも居住中	めぐみ不動産 コンサルティング ☎0463-95-2667
ウィルバー湯河原 湯河原町中央一丁目9-2	20 戸	低額所得者・被災者・高齢者・身体障害者・知的障害者・精神障害者・外国人ほか	30,000 円	リッチフィールド ☎0465-62-7080

※掲載情報は 2023 年 9 月 25 日現在のもので、一般社団法人すまいづくりまちづくりセンター連合会が運営する「セーフティネット住宅情報提供システム」(<https://www.safetynet-jutaku.jp/>) から抜粋。電話連絡が取れて運営が確認できた住宅の情報を掲載しています。各住宅の直近の募集状況については、問い合わせ先事業者にご確認ください。

また、横浜市の家賃補助付きセーフティネット住宅につきましては、横浜市住宅供給公社賃貸住宅事業部 ☎ 045-451-7762 へお問い合わせください。

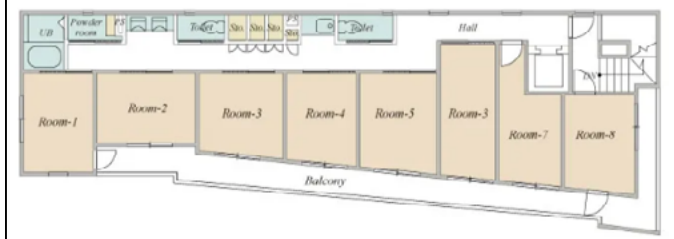


増えてます 福祉型シェアハウス

セーフティネット制度踏まえ 広がるアイデア

2DKタイプの住戸の間仕切りをなくし1カ所に集約された「チェリーハイム」の食堂・台所

「FORALL 愛成」の3階・シェアハウス部分の間取り図⑤。1部屋は現在、モデルルームとして利用しています⑥
(提供：神奈川ロイヤル)



(3面から続く)

さらに今年4月、NPO さくらんぼ、横浜みなみ生活クラブ生協、生活クラブ生協・神奈川の共同企業体による子育て・居住支援のための複合施設「ホームタウンみなみ」が横浜市旭区四季美台にオープン。NPO さくらんぼは、ケア付きシェアハウス「nagomo (なごも)」の運営に携わり、住まいの提供とともに個々の課題の解決に向けて生活コーディネーターを配置。単身者向けが4室と、母子世帯の入居にも対応できる広めの部屋が1室設けられ、こちらもさりげない見守りと相談を行っていくそうです。

いつまでも地域で暮らせる居場所に

NPO さくらんぼのシェアハウスもそうですが、横浜市内のセーフティネット住宅については一定の要件を満たすと家賃補助を受けることができ、生活保護や住居確保給付金を受給していない入居者は収入に応じて負担が軽減されます。

相鉄本線・瀬谷駅から徒歩6分ほど行った場所にある「FORALL (フォーラル) 愛成」も、そんな家賃補助付きセーフティネット住宅として登録されたシェアハウスの一つ。社会福祉法人愛成会(本部・横浜市瀬谷区)が後ろ盾となり、高齢になっても単身者が安心して住み続けられる居場所を目指して新築され、オープンしたのは4年前です。

現在は1・2階が障害者のグループホームとして活用され、3階部分(エレベーター完備)の7室をシェア。50～90歳代までの6人が入居し、介護サービスを受けながら暮らしている人もいます。性別による縛りはなく、男女の比率は今のところ半々。その辺りは入居管理に携わる神奈川ロイヤル(本社・横浜市西区)が意識して、バランスの取れた居住形態が保たれているということです。

緊急時等の対応については警備会社との提携に加え、月曜から土曜日の日中(10時～17時)は管理人が常駐。安否確認のほか共用部の清掃などを受け持ち、「シェアハウスは自由に暮らす中で、誰かしらに見守られているという安心感が心地良いといった感想を頂戴しています」と、管理責任者の平本春樹さん。今後の抱負について運営母体、愛成(本社・横浜市瀬谷区)の平本秀真さんは、「コロナ禍でなかなかできなかった居住者同士の交流を深める企画などにも力を入れたい」と、話しています。

New Wave
住まいのカタチ



外国人技能実習生の居住水準を改善

一方、借手の付かない一戸建て、アパートをシェアハウスやバリアフリー仕様にリフォームして住宅確保要配慮者が住めるようになれば空き家対策としても有効であることから、国はそうしたセーフティネット住宅に対する改修費に対して補助を行っています。この制度を利用して2021年に登録されたのが横浜市鶴見区潮田町にある「チェリーハイム」です。

管理・運営に当たるさくらGS(本社・横浜市神奈川区)は、横浜と川崎の2カ所の工場でメッキ事業を手掛ける企業。10年ほど前から、ベトナムから男性の技能実習生を招いて、安定した生産・供給体制の維持に役立ててきました。同社執行役員の櫻井利晃さんによれば、受け入れに際して提供された自社のアパートは、1階は独立した1Kでしたが、2・3階は2DKタイプを相部屋で使ってもらっていたといいます。「人数が増えるにつれてプライバシーの問題などが生じ、住環境の質の向上を図るため上階部分は改修して、シェアハウスにしたのです」

2階の1住戸に共用の食堂・台所を集約し、残りの5住戸については個室3部屋+バス、トイレ、洗面・洗濯室で構成。食堂・台所にはシステムキッチンが3つ備わり、整理整頓が行き届いている印象を受けました。ゴミ出しや分別なども当番制で、皆が集まって暮らすことで日本での生活に溶け込む術が先輩から後輩へと伝えられ、住み手による自主管理が定着しつつあるそう。また、「休日には居住者総出で駐車場や道路清掃などにも取り組み、ご近所との関係も良好です」と、櫻井さんは胸を張ります。



このように、支援の目的や対象によりさまざまな福祉的なシェアハウスが誕生しています。ハード面については、2017年に発効した新たな住宅セーフティネット制度(住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律を改正)により、シェアハウスを登録する場合の面積や共用部に関わる基準が具体的に示されました。あくまでも登録住宅に求められる基準ではありますが、人間らしく安全・快適に暮らしていける最低限の居住水準が設定された意義は大きく、これに従う建物が広まっていくことでしょう。

一方で、人々の縦横無尽なつながりにおいて形成されるコミュニティの可能性は無限大。世代や国籍などを超えて、複合的に支え合える新しいシェアのアイデアにも注目したいと思います。

掲示板

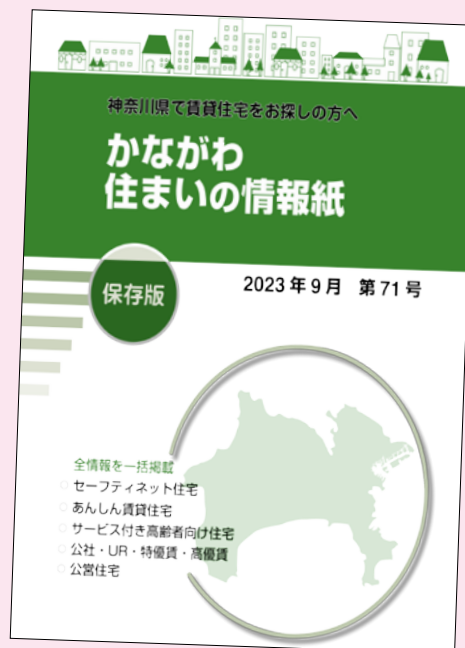
神奈川県居住支援協議会 からのお知らせ

かながわ住まいの情報紙 [2023 年度保存版] を発行しました

県内のセーフティネット住宅、かながわあんしん賃貸住宅、サービス付き高齢者向け住宅、および公的賃貸住宅の募集情報などを集約した「住まいの情報紙」第 71 号（2023 年 9 月 29 日発行）ができました。A4 サイズの保存版冊子として作成し、県機関、市町村の住宅関連窓口、有隣堂の主要店舗などで無料配布しているほか、居住支援協議会のホームページ（下記 URL）からダウンロードできます。

<http://www.machikyo.or.jp/kyojyushien/>

在庫切れなどお近くで手に入れるのが難しいという方には、郵送にも応じています。ご希望の方は、事務局・かながわ住まいまちづくり協会 ☎ 045 (664) 6896 まで、ご一報ください。



厚木にもできました。

2023 年 3 月、県内で 8 つ目となる市町村単位の居住支援協議会が、厚木市に誕生しました。事務局は市のまちづくり計画部住宅課 ☎ 046 (225) 2330。

下記 URL のホームページから、「住まい探し相談会」の情報や、PDF 版の「協力不動産店ガイドブック」「住まい探しの手引」などがゲットできます。

<https://www.city.atsugi.kanagawa.jp/soshiki/jutakuka/9/1/36088.html>

困ったら、こちらへご相談ください

当協議会では、住宅確保要配慮者に対する住宅相談並びに入居可能な民間賃貸住宅情報の提供及びあっせんから、入居後の支援に至るまでの一連の支援活動について、NPO 等の民間団体と連携して取り組む事業を実施しています。2023 度は、以下の団体と業務委託契約を締結し、相談に応じています。

窓口名称 問い合わせ電話番号	対象者（●印が対応可）						
	高齢者	障害者	子育て世帯	外国人	低額所得者	生活困窮者	その他
(一社) インクルージョンネットかながわ ☎ 0467-46-2119	●	●		●	●	●	●
(NPO) 日本地主家主協会 ☎ 045-620-3701	●	●	●		●	●	●
(NPO) 楽 ☎ 044-522-4910	●		●		●	●	

Topics

適正なマンション管理のあり方学ぶ

相模原市で今年度、セミナーを2回開催

マンションは戸建て住宅とは異なる合意形成や権利関係の複雑さなどから、修繕等をはじめとする管理・運営について、多岐にわたる問題が生じます。そこで相模原市は(公財)マンション管理センターと共催(国土交通省、住宅金融支援機構、一般社団法人神奈川県マンション管理士会など後援、協賛・かながわ住まいまちづくり協会)で、マンション居住者による自主的な維持管理に対する取り組みを支援するため、専門家を講師に招いてセミナーを2回開催します。開催概要は次の通りで、参加費無料。

第1回の申し込みは、10月22日(日)までに相模原市コールセンター☎042(770)7777へご連絡ください。先着順に受け付け。受付時間は8:00～21:00(土・日曜、祝日も対応)。

【第1回】

日時/令和5年10月28日(土)13:30～15:20
会場/相模原市立産業会館 大研修室(相模原市中央区)

定員/100名

テーマ/「マンション

の管理計画認定制度」の概要や同制度に関する支援サービス、住宅金融支援機構の融資制度など

【第2回】

日時/令和6年2月3日(土)
13:30～16:00

会場/相模原市民会館 第二大会議室(相模原市中央区)

令和5年度
第1回マンション管理セミナー

マンションのこと 学びませんか?



01 管理計画認定制度について
(相模原市 都市建設局 まちづくり推進課 担当)

02 管理計画認定手続支援サービスについて
(公益財団法人 マンション管理センター 代表)

03 管理計画認定による機構制度のメリット
(住宅金融支援機構 融資センター)

日時 令和5年10月28日(土)
午後1時30分～午後3時20分

参加費 無料

会場 相模原市立産業会館 大研修室
相模原市中央区中央3-12-1

▼申し込みはこちらから

申込 電話にて受付
10月5日(木)～22日(日)まで
042-770-7777(相模原市コールセンター)へ
午前9時から午後5時(土・日・祝含む)

受付時間 定員 100名(先着順)

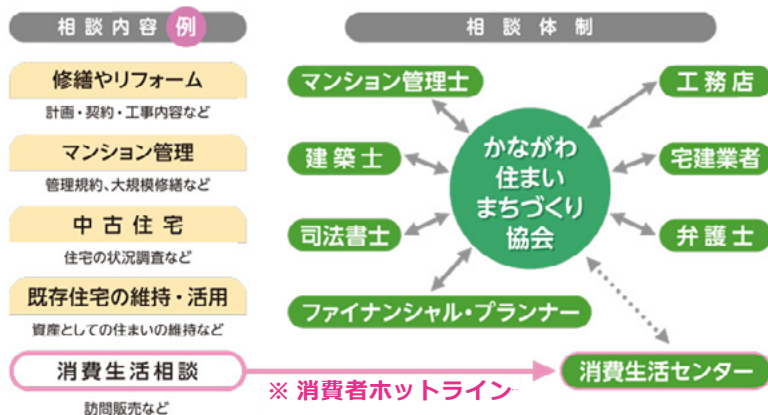
主催 相模原市、公益財団法人マンション管理センター
後援 国土交通省、住宅金融支援機構、一般社団法人神奈川県マンション管理士会
協賛 公益財団法人かながわ住まいまちづくり協会

住まいでお困りの方に

まち協 我が家の相談室 がアドバイス

来年1月末まで開設

「まち協 我が家の相談室」では、修繕・リフォームの方法や工事でのトラブル、中古住宅への不安など、お住まいで困っている方を対象に、専門家による相談をお受けしますので、ぜひご利用ください。相談内容によっては、複数の分野の専門相談員が連携して対応します。



ご相談は、メール、電話、ファクスでお申し込みください。

メールやファクスによるお申し込みは、まち協ホームページ(住まいまちづくりネットかながわ)から「様式1 まち協 我が家の相談申込書」をダウンロードしてご使用ください。

最初の窓口相談(2時間程度)等は無料ですが、再相談や現地相談は一部ご負担いただきます。

オンライン相談
も対応できます!

◆出張相談会のご案内◆

参加費無料、予約制(先着順)

リフォームの方法や空き家の管理・利活用をテーマとしたセミナー、および個別相談会を開催します。申し込みは、下記・まちづくり協会まで

開催日	会場
2023年10月20日(金)	おだわら市民交流センター UMECO
10月23日(月)	南足柄市りんどう会館
10月31日(火)	大磯町立福祉センター さざれ石
11月8日(水)	二宮町生涯学習センター ラディアン
11月10日(金)	大磯町立福祉センター さざれ石

※10月31日に開催される大磯町のセミナーは「空き家予防」がテーマとなっています。

お問い合わせ、お申し込みは

(公社)かながわ住まいまちづくり協会

Tel.045-664-6896 Fax.045-664-9359

※消費者ホットラインは、局番なし188
(身近な消費生活センター等につながります)

定員／70 名

テーマ／「適正な理事会運営について」及び「長期修繕計画と大規模修繕工事について」

石綿被害撲滅へ規制強化図る

10 月から有資格者による事前調査を義務付け

かつて多くの建材や断熱材に使用されてきたアスベスト（石綿）は、人体に重大な健康被害を及ぼす可能性があるなどの悪影響が明らかになり、2006 年 9 月 1 日以降、製造・輸入・譲渡・提供・使用が全面的に禁止されました。それ以前に造られた建築物については、解体・改修工事を行う際に飛散の恐れがあるため大気汚染防止法と石綿障害予防規則によって規制が図られてきましたが、作業開始前の石綿含有の有無の事前調査などがおざなりにされていたことを受け、ここ最近、施策を徹底する方向で法改正が行われています。

2022 年 4 月からは、工事の元請け業者に対して事前調査結果を都道府県及び労働基準監督署に報告することが義務付けられ、さらにこの 10 月 1 日着工の工事から、事前調査は一般社団法人日本アスベスト調査診断協会への登録者など有資格者でなければ実施できなくなりました。

また工事の発注者となる建物所有者についても、施工業者に対して次のような配慮、措置が求められているということをお知り置ください。

- 情報提供** 事前調査が適切に行われるよう、石綿の有無を確認する上で有用な情報（設計図書、建築確認申請の副本等）を施工業者に提供する
- 費用負担及び工期への配慮** 事前調査の結果、石綿が使われていることが明らかになった場合は、除去工事に必要な費用の拠出や、工期・作業方法についても施工業者が法令を遵守して工事ができるように配慮する
- 特定粉じん排出等作業の届出** 吹付け石綿、石綿含有断熱材・保温材・耐火被覆材が使用されている建物の解体については、発注者が作業実施届出書を提出するなどが定められています。

詳細は、厚生労働省による石綿総合情報ポータルサイト＝<https://www.ishiwata.mhlw.go.jp/>＝をご覧ください。

まち協・事務局だより

◆ 定時社員総会を6月に開催しました

長田会長は開会挨拶で、

「令和 4 年度に予定した事業は概ね計画通り実施され、収支についても単年度黒字を計上することができた。一方、累積黒字が公益法人の会計基準に照らし収支相償、並びに遊休財産の保有上限額の面から基準を満たさない部分が出てきたことから、新たな対策を講じる必要がある。」

具体の事業に目を向けると、空き家の利活用と高齢者等の住宅確保への視点から取り組みを開始した「住宅の転貸借事業」として、第一号となる契約を締結するなど、従来よりも一歩進んだ住まい探し支援に関わる事業を実施し、今後も実績を重ねてまいりたい」

との発言を行いました。

また、この総会で、主な議案として、令和 4 年度事業報告及び収支決算案、並びに理事の改選が承認され、これら事業報告や決算書は、ホームページで情報公開しています。

◆ 住まい給付金制度の申請受付が間もなく終了します

すまい給付金制度は、消費税率が 8% に上げられた 2014 年 4 月以降の住宅取得者の負担を軽減するために設けられ、2021 年の閣議決定により給付対象枠が広がられました。次の期間に契約をされた方については、お住まいが 2022 年 12 月 31 日までに引渡され、入居が完了していれば対象となります。

注文住宅の新築の場合：

2020 年 10 月 1 日から令和 3 年 9 月 30 日まで
分譲住宅・中古住宅の取得の場合：

2020 年 12 月 1 日から令和 3 年 11 月 30 日まで

給付金の申請期限は住宅の引き渡しを受けてから 1 年 3 カ月。今年度いっぱい終了となりますので、給付対象に該当する方は、手続きをお忘れなく。当協会も申請受付の窓口となっており、事前予約のうえ、お気軽にご利用ください（担当・審査部まで、☎ 045-664-6896）。

住まいとまちづくり VOL.43

2023 年 10 月 10 日発行

発行／公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会

〒231-0011 横浜市中区太田町 2-22 神奈川県建設会館 4 階

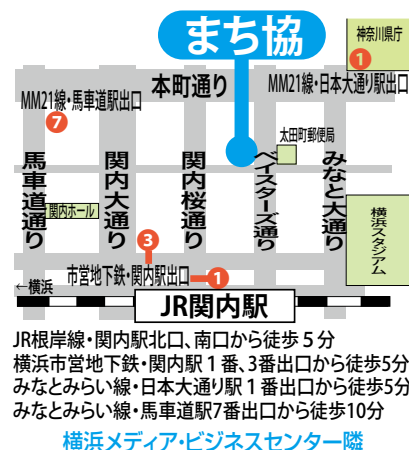
☎ 045-664-6896 FAX 045-664-9359

<http://www.machikyo.or.jp/>

E-mail admin@machikyo.or.jp

発行人／長田 喜樹

編集責任者／塚田 操六



水と緑が織り成す自然景観に加え、
水流の音やきらめく水面が癒しと安ら
ぎを与えてくれる身近な水辺。
そんな県内の潤いあふれる親水ス
ポットをルポして紹介します。



平坦で広大な原っぱを心地よい川風が吹き抜ける「せせらぎと親子広場」



▲緩やかに流れるせせらぎと、大きく枝分かれした木立が子どもたちの冒険心をかきたてます

【アクセス】

- 東急田園都市線・二子新地駅、高津駅、JR南武線・武蔵新城駅から徒歩約 25 ～ 30 分。
- 最寄りバス停は、東急バス「下野毛」、または川崎市バス「黄金塚」
- ※ 付帯の駐車場はありません

川崎市高津区下野毛の多摩川河川敷、第三京浜の脇にある「せせらぎと親子広場」。広い原っぱの中央を長さ 300m ほどの人工の小川が流れ、所々に植えられた樹木が大きく育って涼しげな木陰をつくっています。

ここで4年前から繰り広げられているのが「高津せせらぎプレーパーク」。木登り、鬼ごっこに草花摘み… 夏場は思いっきり水浴びOK。大人が安全に気遣いつつ、子供たちが大勢集まって、のびのびとやりたいことに挑戦できる遊び場が、月1回ペースで開催されています。

企画・運営に当たるのは、地元の自主保育グループなど子育て中の保護者らが「やってみたら、やれんじゃん!」の精神で結成した「高津せせらぎプレーパークやレンジャー」。平坦で見晴らしも良く、プレーパークにふさわしい環境であったことから川崎市高津区の市民提案型協働事業に応募して、2020 年度から3年間にわたって採択されて実施してきました。

4 年目を迎えた 2023 年度は区のサポートがなくなり、クラウドファンディングで資金を募って独り立ち。「昨年度までの集計で延べ 2,000 人を超える参加があり、子どもたちに昔遊びを教えたいとやって来られるようになった年配の方や、工作の材料を寄付して下さる方なども現れました。そんな、かけがえのない遊び場と、皆さんの温かい応援をずっと引き継いでいけるよう頑張ります!!」と、やレンジャーの現代表を務める円子智子さん、前代表の鈴木暁子さんは口を揃えます。

今年度からは、プレーパークや多摩川の自然観察会に加え、乳幼児向けの「あおぞらピクニック」も開催。スケジュール等はホームページ (<https://takatsuseseragiplaypark.wixsite.com/website> , <https://www.facebook.com/takatsuseseragiplaypark/>) でご確認ください。



これまでに行われたプレーパークの楽しい思い出(画像提供・高津せせらぎプレーパークやレンジャー)

